

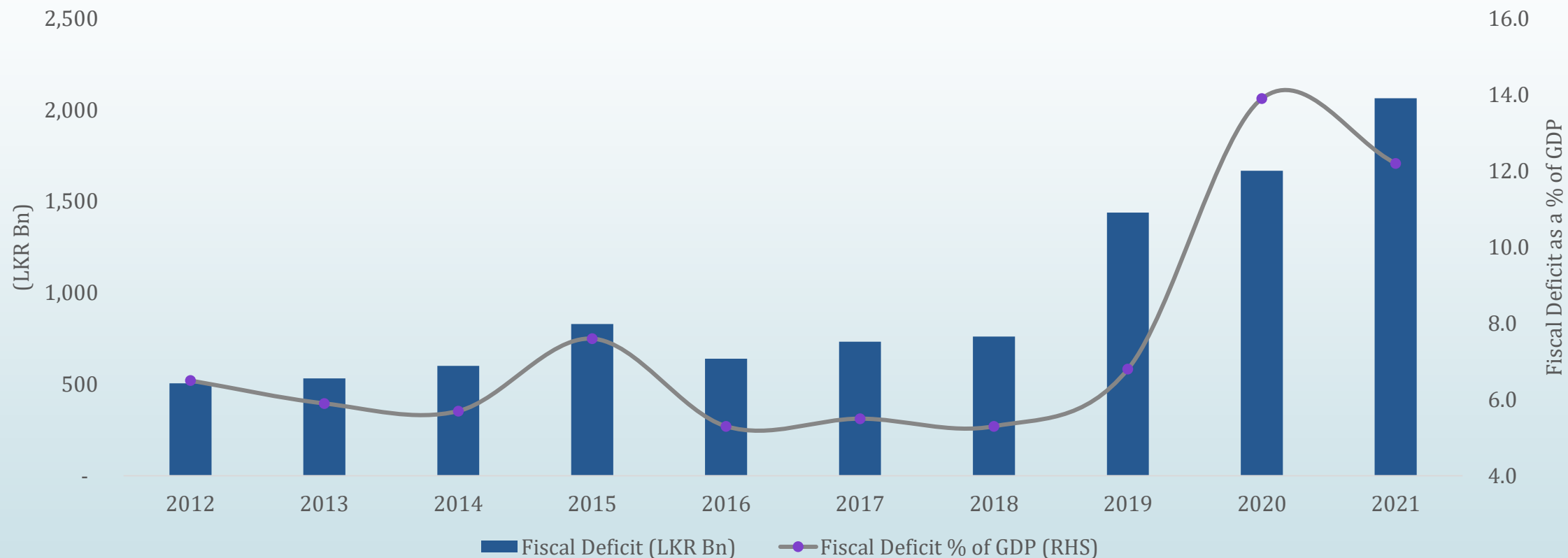
# スリランカ： 経済危機の原因は？

---

August 2022

# 財政赤字の拡大：GDPが伸び悩む中、2020年から財政赤字の対GDP比が2桁に急増

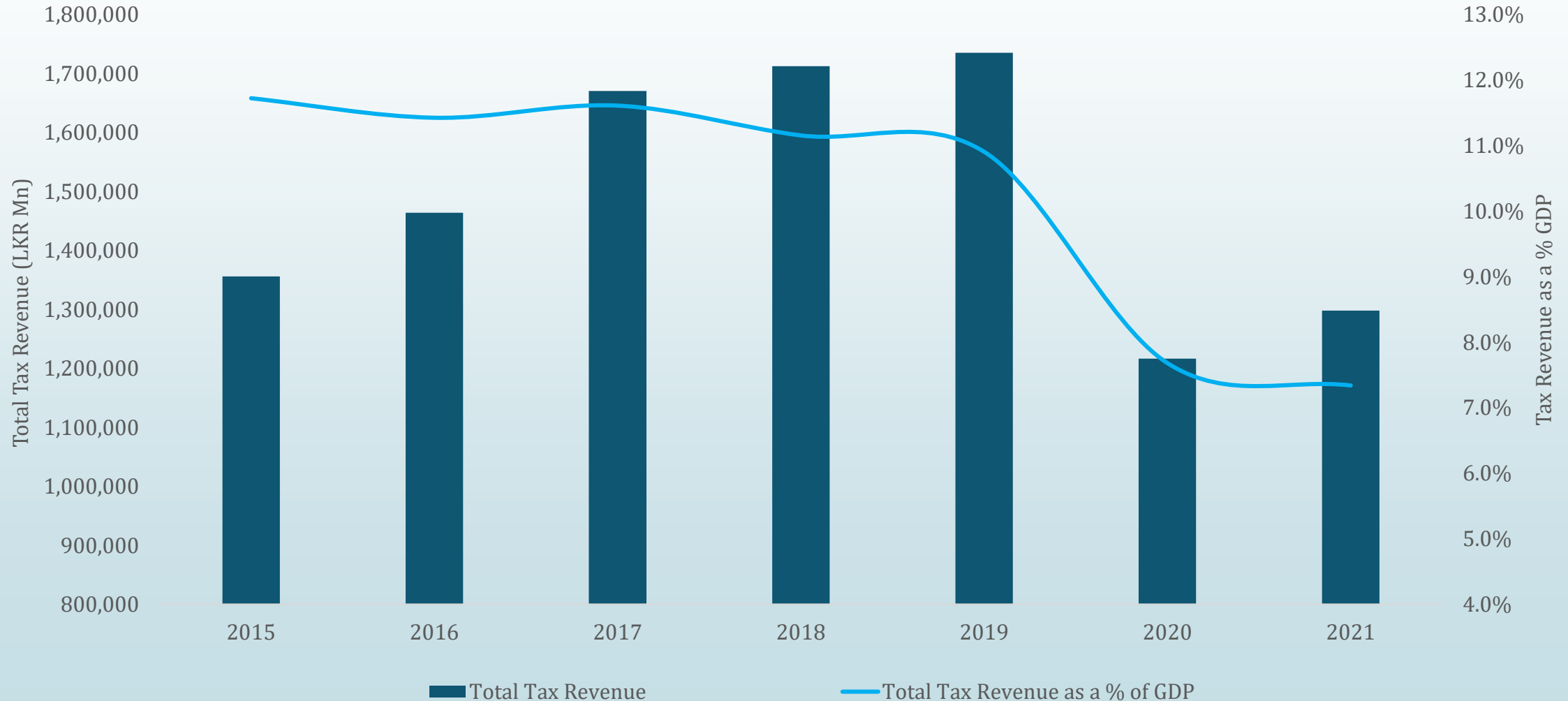
2021年、政府支出はLKR3.5Tnを超え、政府収入総額はLKR1.4Tnと大幅に減少



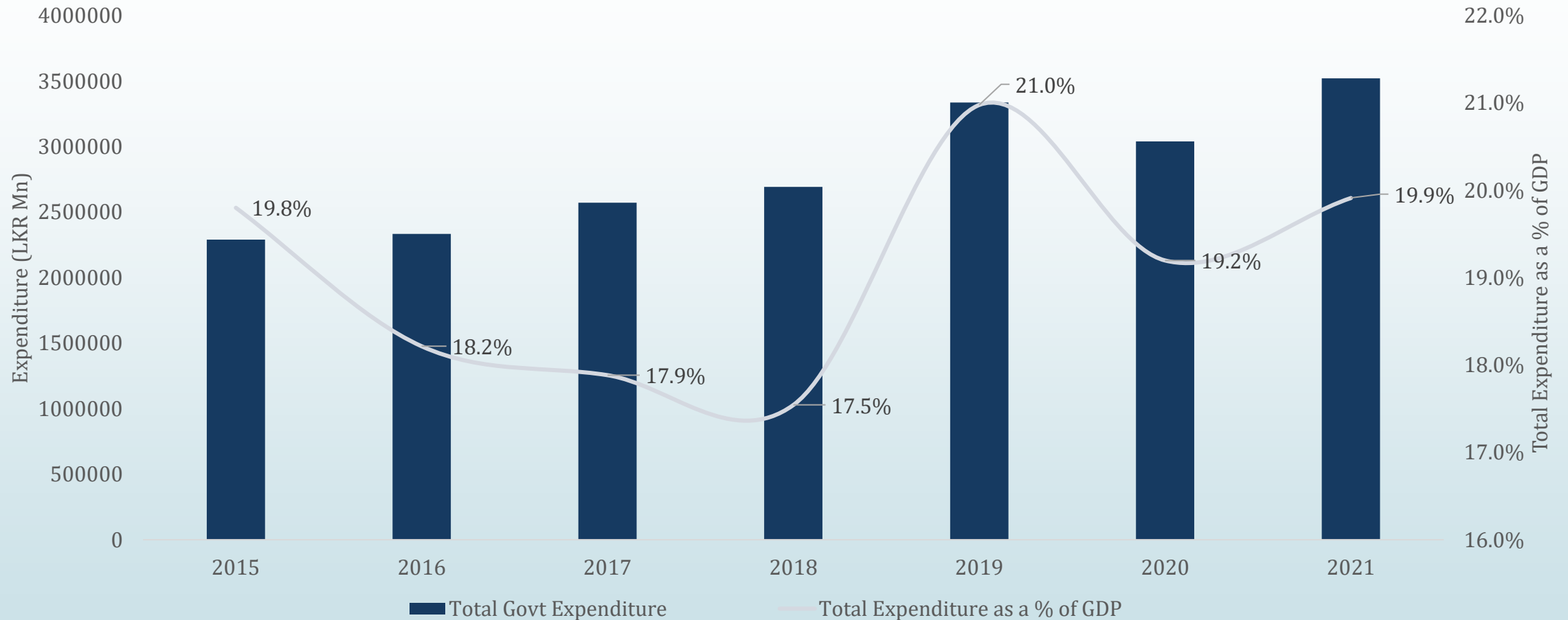
2019年12月から導入された減税や利権による歳入減の中、Covid-19対策への支出増、国営企業の損失により、2021年の財政赤字はGDP比~12%に拡大。

# 政府収入減少：スリランカの歳入の対GDP比は、減税により、2016年の14%から2021年には8%に弱体

政府は税制改正により、2022年下半期に1,250億LKR、さらに2.5%の歳入税を予定しているが、当面は消費と輸入の減少が税収を圧迫する可能性がある。



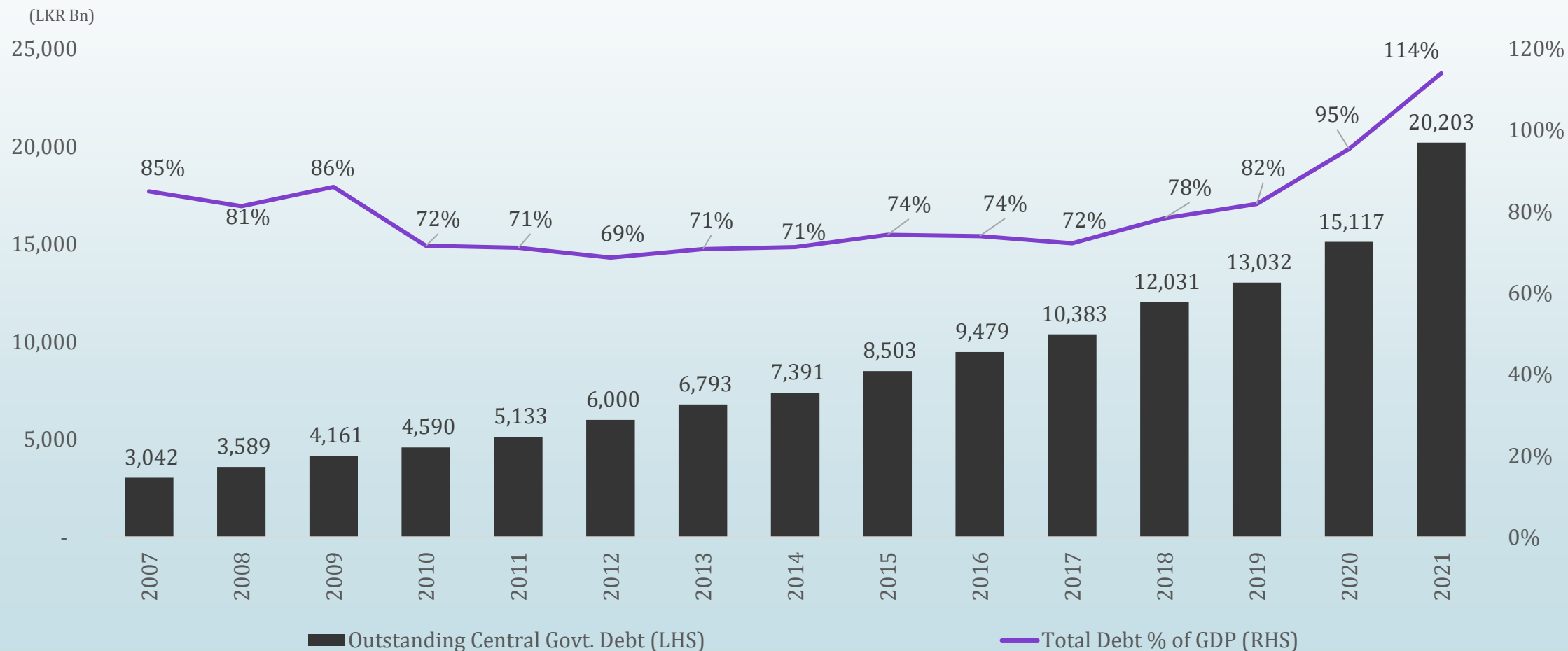
# 経常的支出の増加：経常支出が増加する中、2021年の政府支出はGDPの20%程度に拡大



政府職員に5年間の無給休暇を与え、海外で働くことを認めることは、政府税収の約65%を占める給与の負担をいくらか軽減する措置と考えられる。

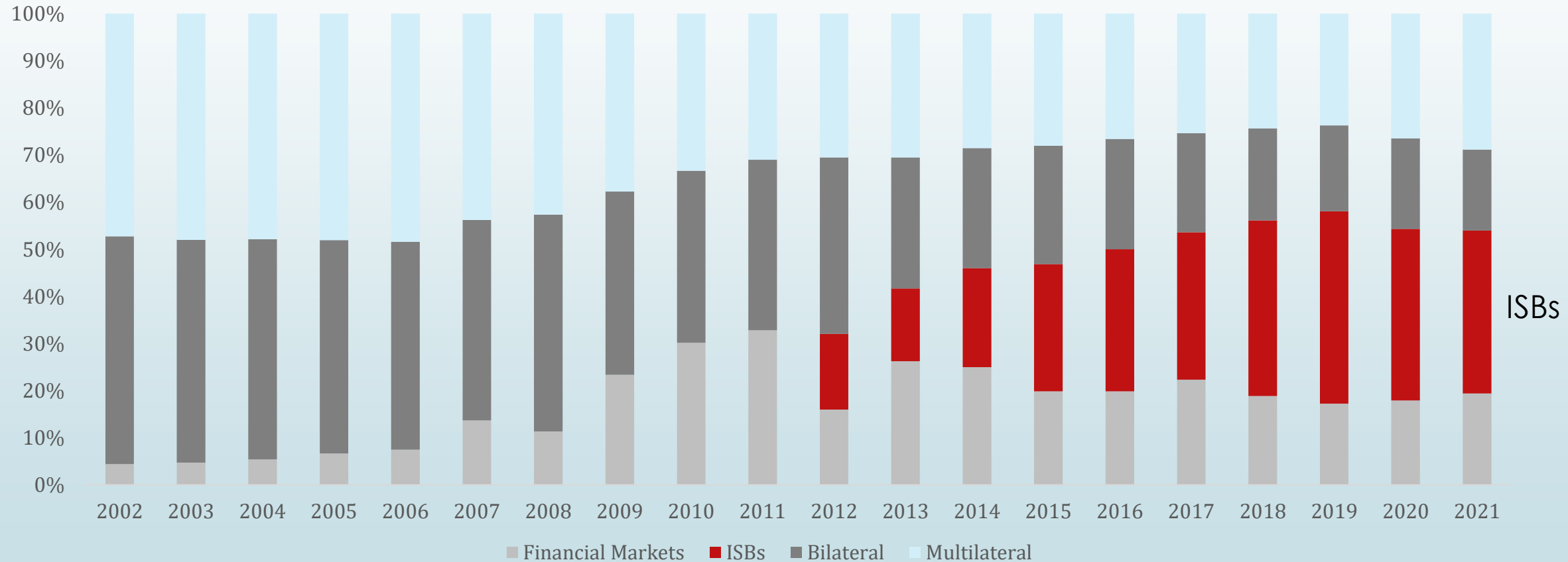
# 持続不可能な債務：公的債務は2021年末に20兆LKR (1,000億米ドル) を超え、47%が外貨建てに

さらに、総負債の対GDP比率は114%を超え、追加借入とGDPの減少が予想される中、2022年には130%まで上昇する兆しを見せています。



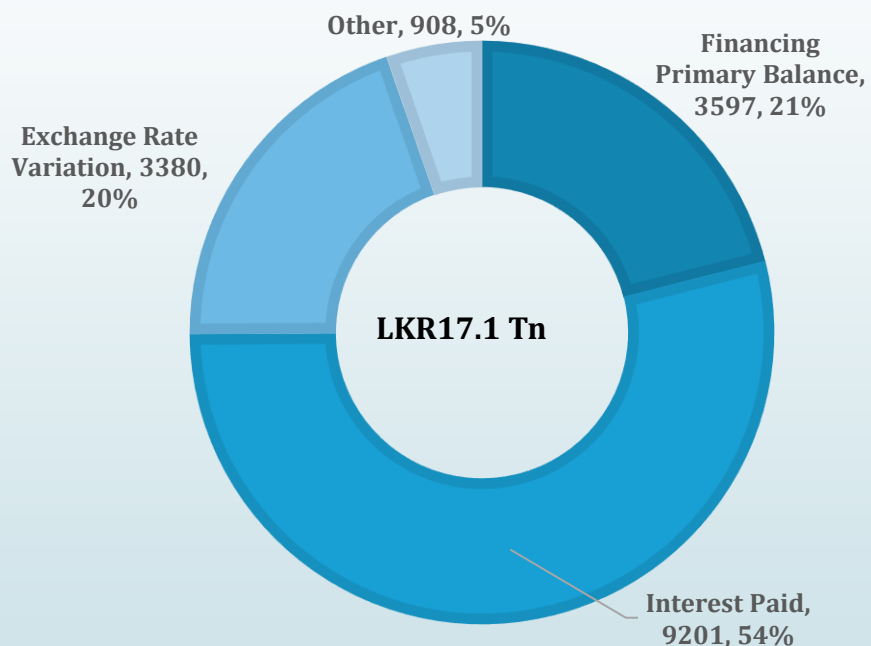
# 市場からの借入の影響：2012年以降、国際ソブリン債による多額の借入を行った結果、国際債券市場への依存度が高まり、二国間および多国間融資と比較して高い金利が発生した

% of total foreign debt

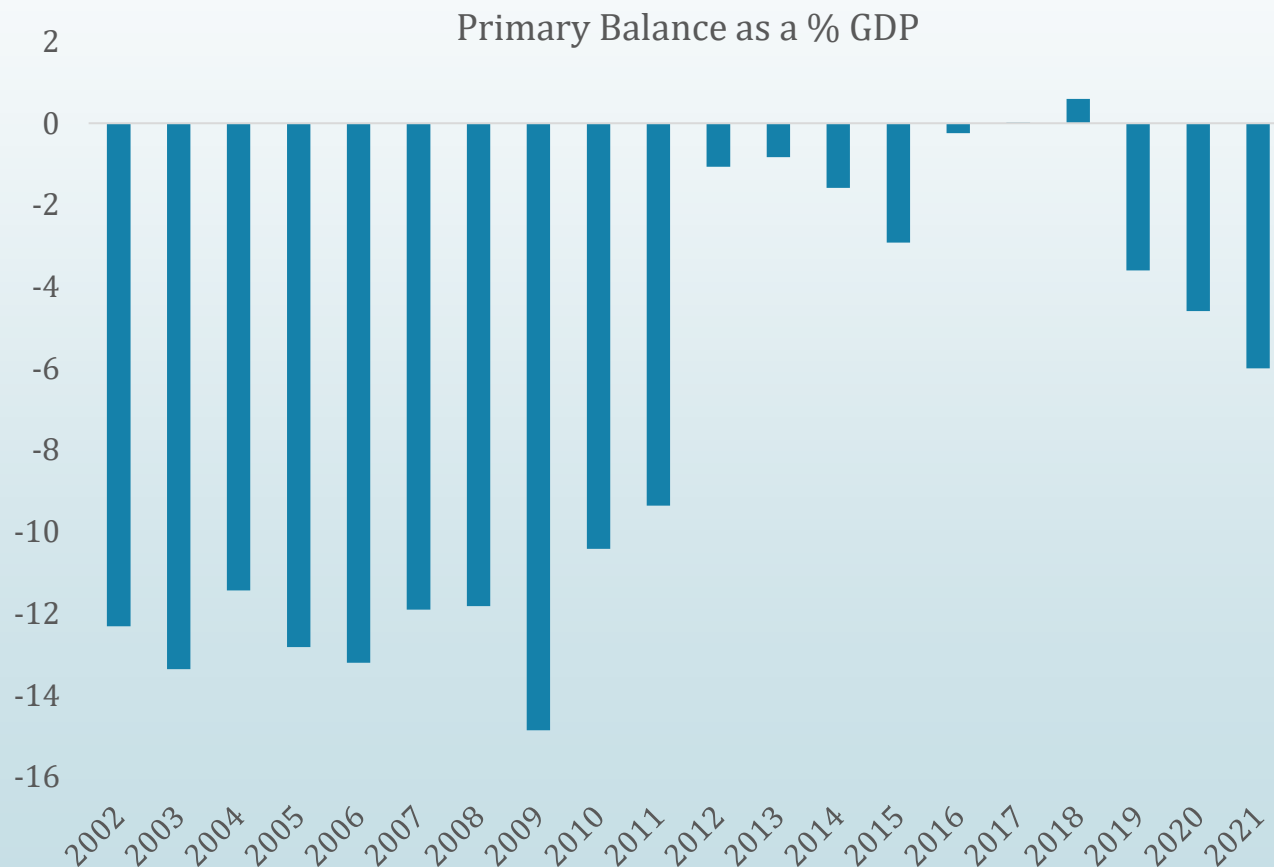


# 2000年以降の債務残高の53%以上は支払利息、 21%はプライマリーバランスの継続的な赤字が占める


債務残高のうち53%以上を占めるのは金利負担



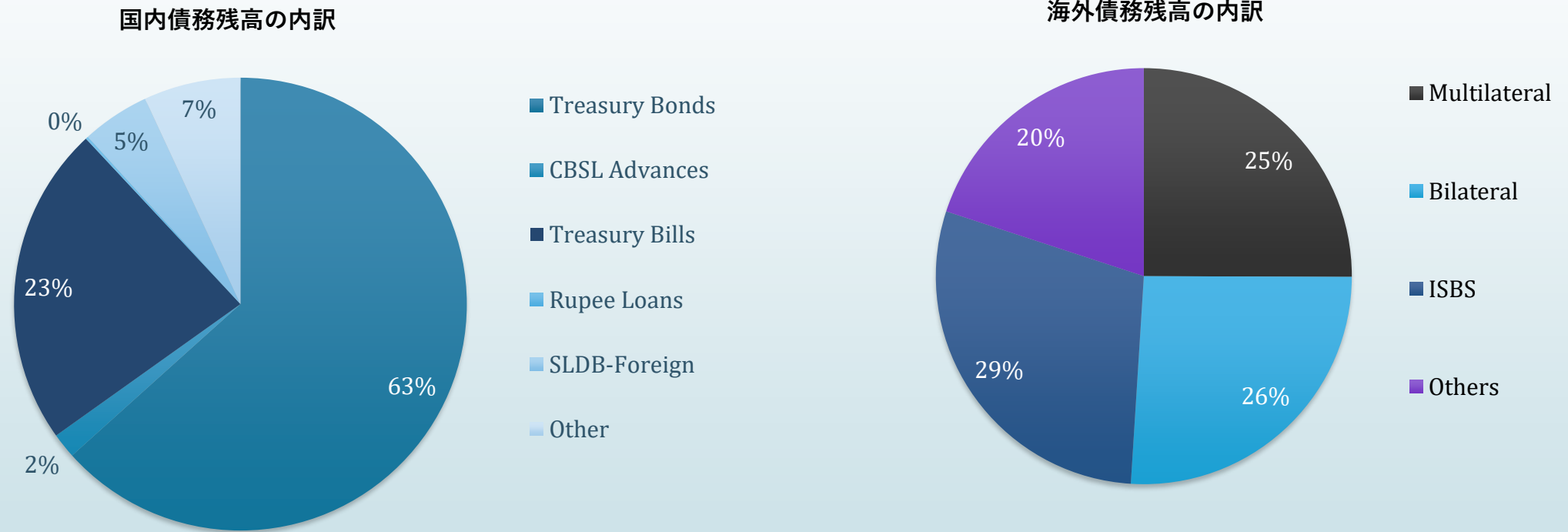
プライマリーバランス赤字の継続は、債務積み増しの21%を占める



# 国債と国際ソブリン債が政府の国内外負債に占める割合が最も高いが、中国は依然として最大の二国間融資先である



国内債務（～220億ドル）の大半（～63%）は国債であり、海外債務（～130億ドル）は国際ソブリン債が最大の構成要素となっている。

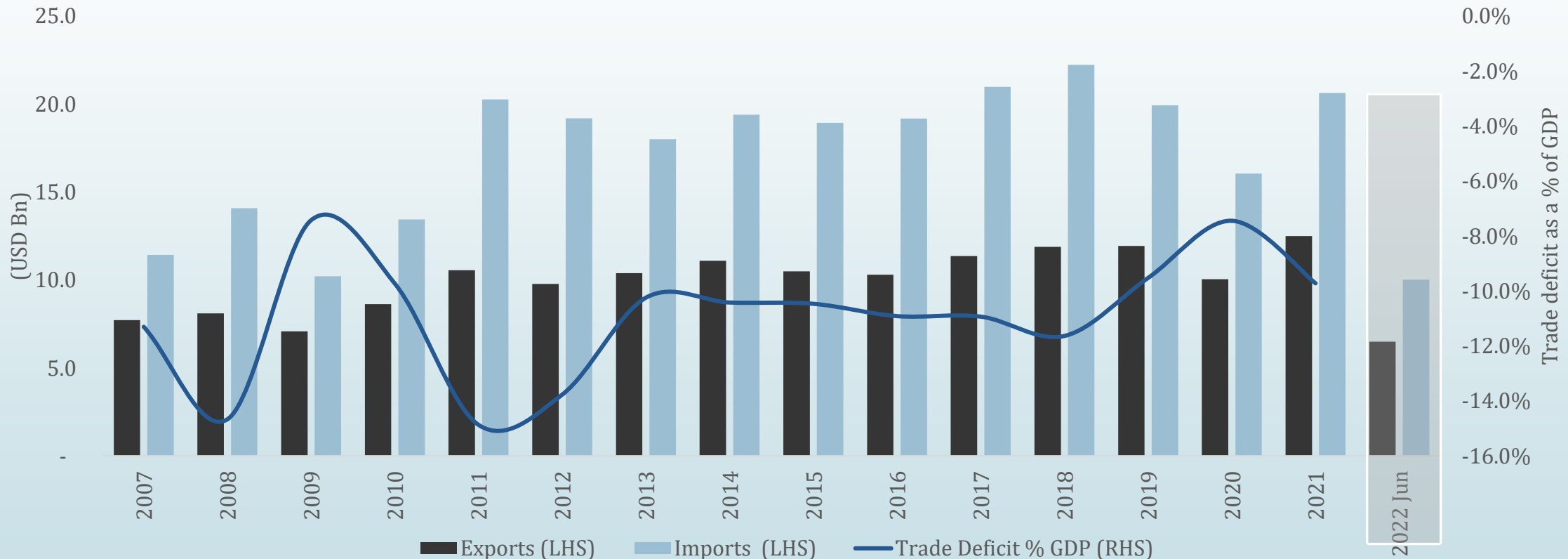


スリランカの対外債務のうち、二国間の債務は100億ドル。昨年末の時点でそのうちの44%が中国からの借入であった。**日本からは32%、インドからは10%。**



# 貿易赤字：2011年以降、貿易赤字が拡大し、現在の国際収支危機の一因となった。22年6月現在、スリランカの貿易赤字は35億ドルで、適切な管理下で前年比約19%縮小している

2021年の燃料費の高騰を考えると、スリランカの総輸入額は200億ドルを超え、貿易赤字は81億ドル、GDPの10%程度となる。

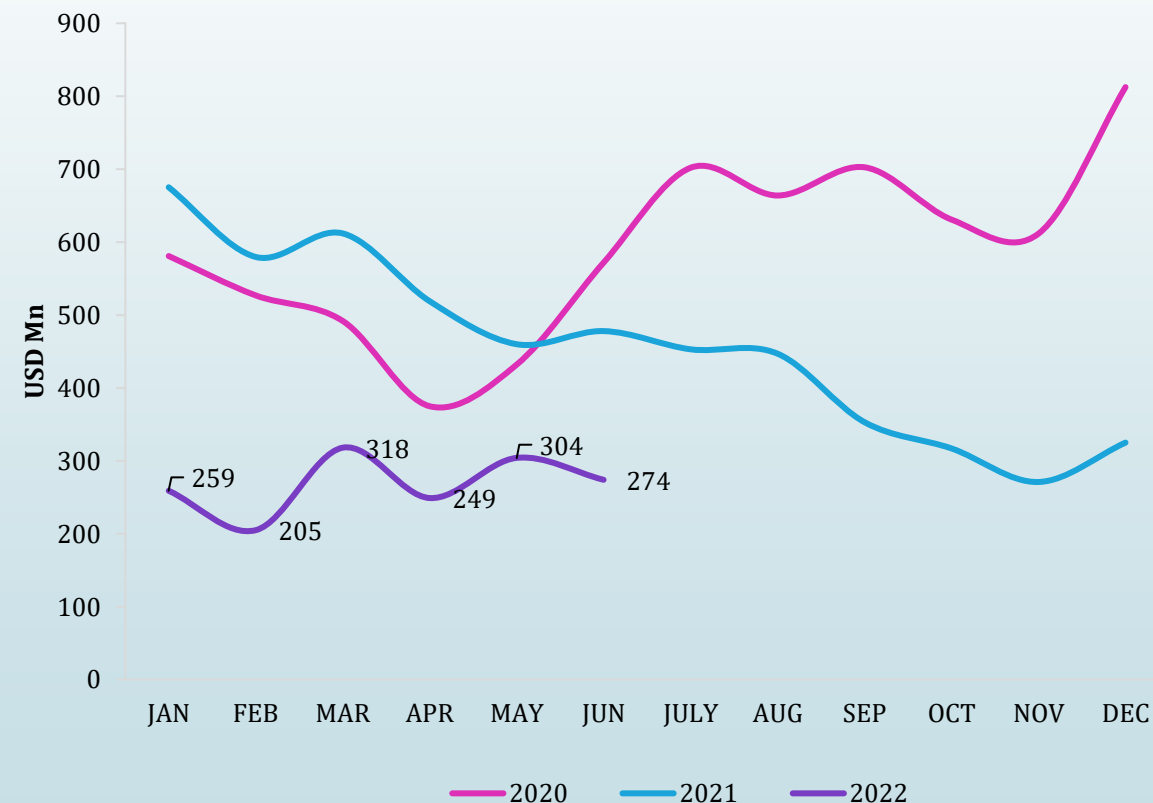
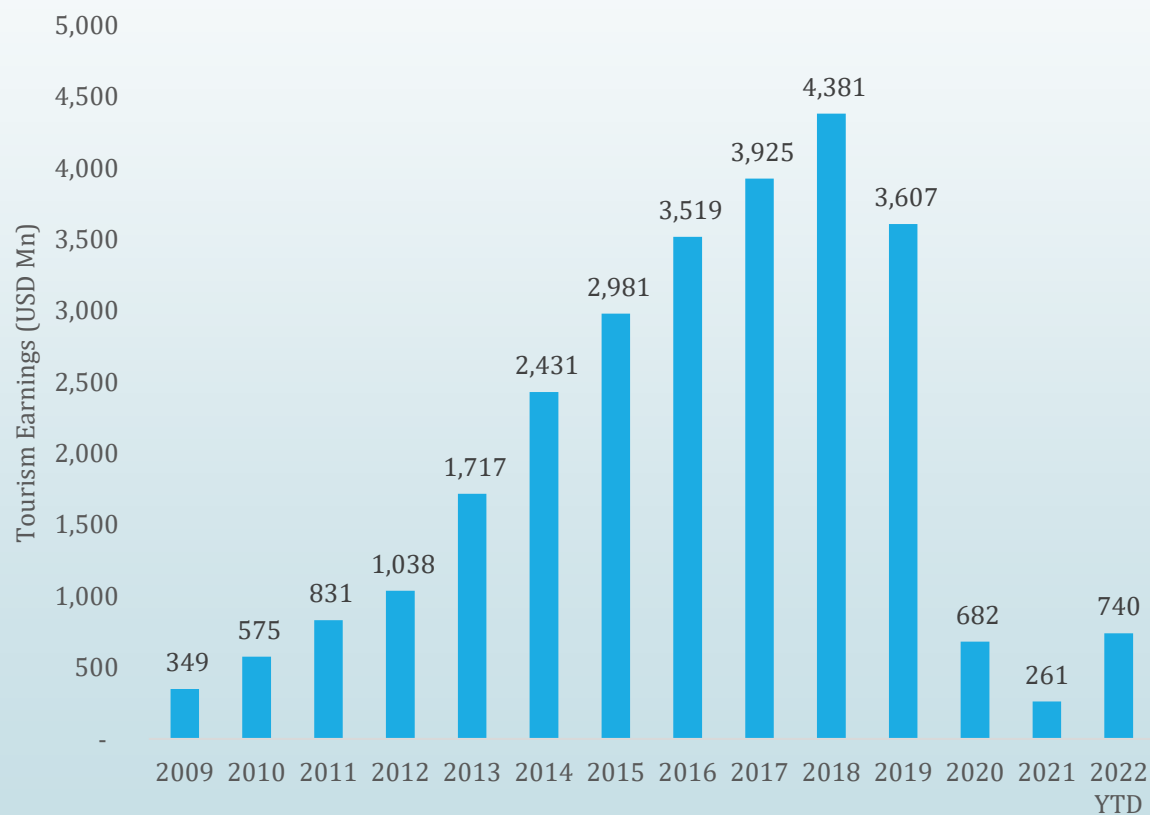


不急の品目に対する様々な輸入規制の実施により、輸入の急激な増加を抑制しつつ、22年6月には貿易黒字を達成しました。

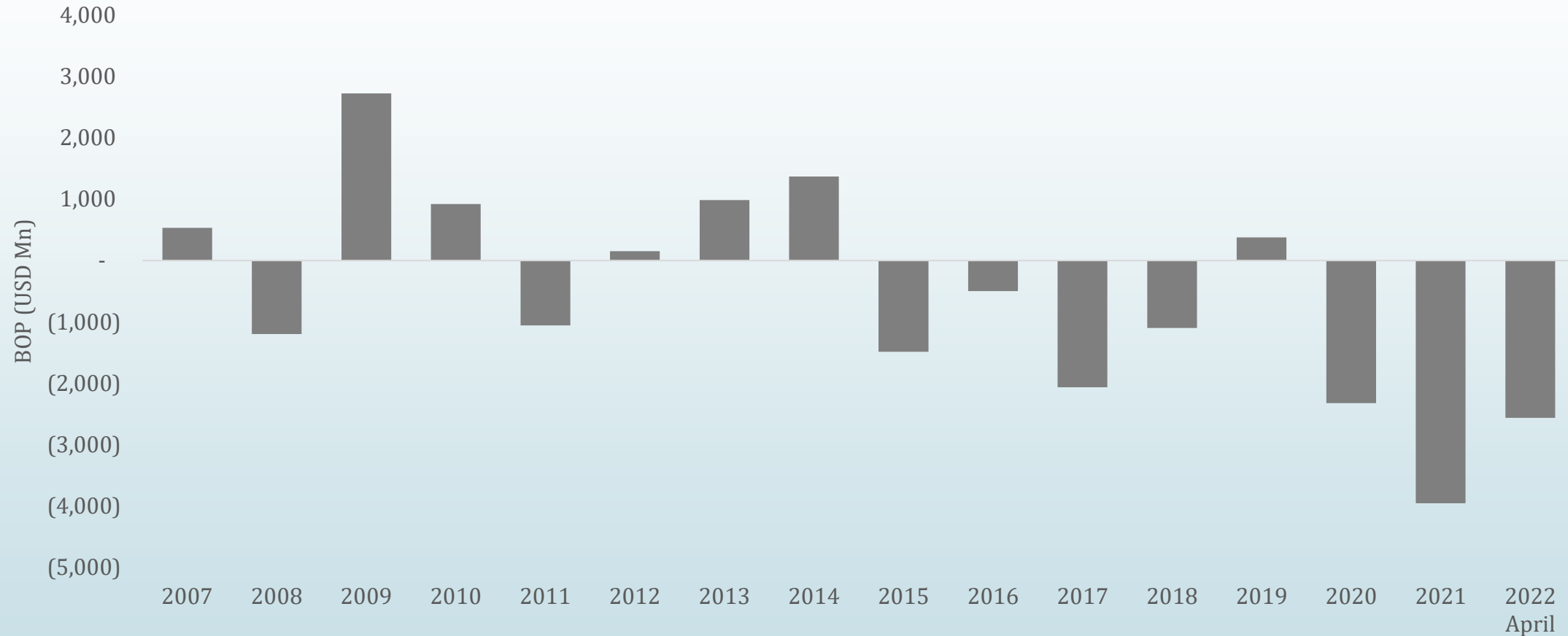
# 外貨獲得の低迷：観光収入は、連続爆破テロ事件とパンデミックにより2019年から低下し、海外で働いているスリランカ人労働者からの送金はLKルピー安により2021年から鈍化

2018年に40億米ドル以上を占めていた観光収入が、パンデミックの影響で激減し、国際収支の状況が悪化

海外で働いているスリランカ人労働者からの送金は、2022年に16億ドル（前年同期比51%減）を記録したが、引き続き減少している。



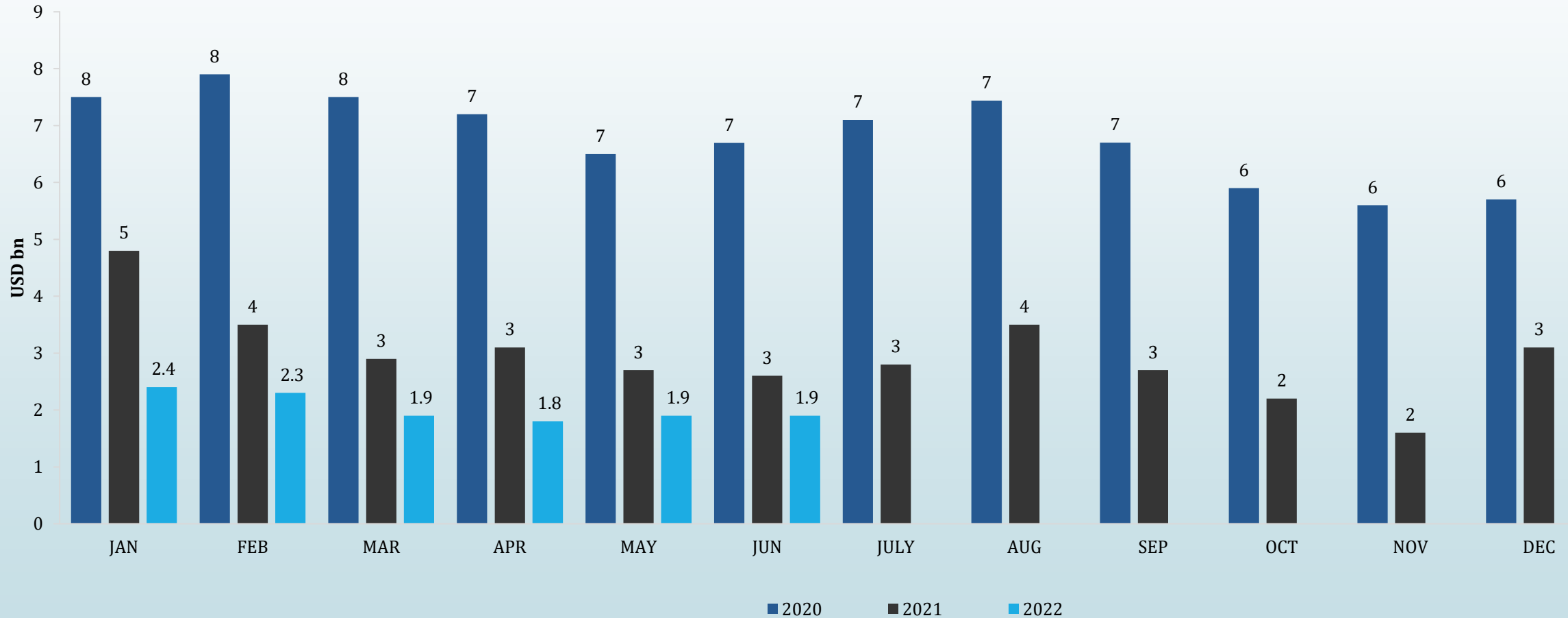
# 国際収支の悪化：外貨規制により、スリランカの国際収支は現在28億ドルの赤字であり、2021年には40億ドルの赤字予測



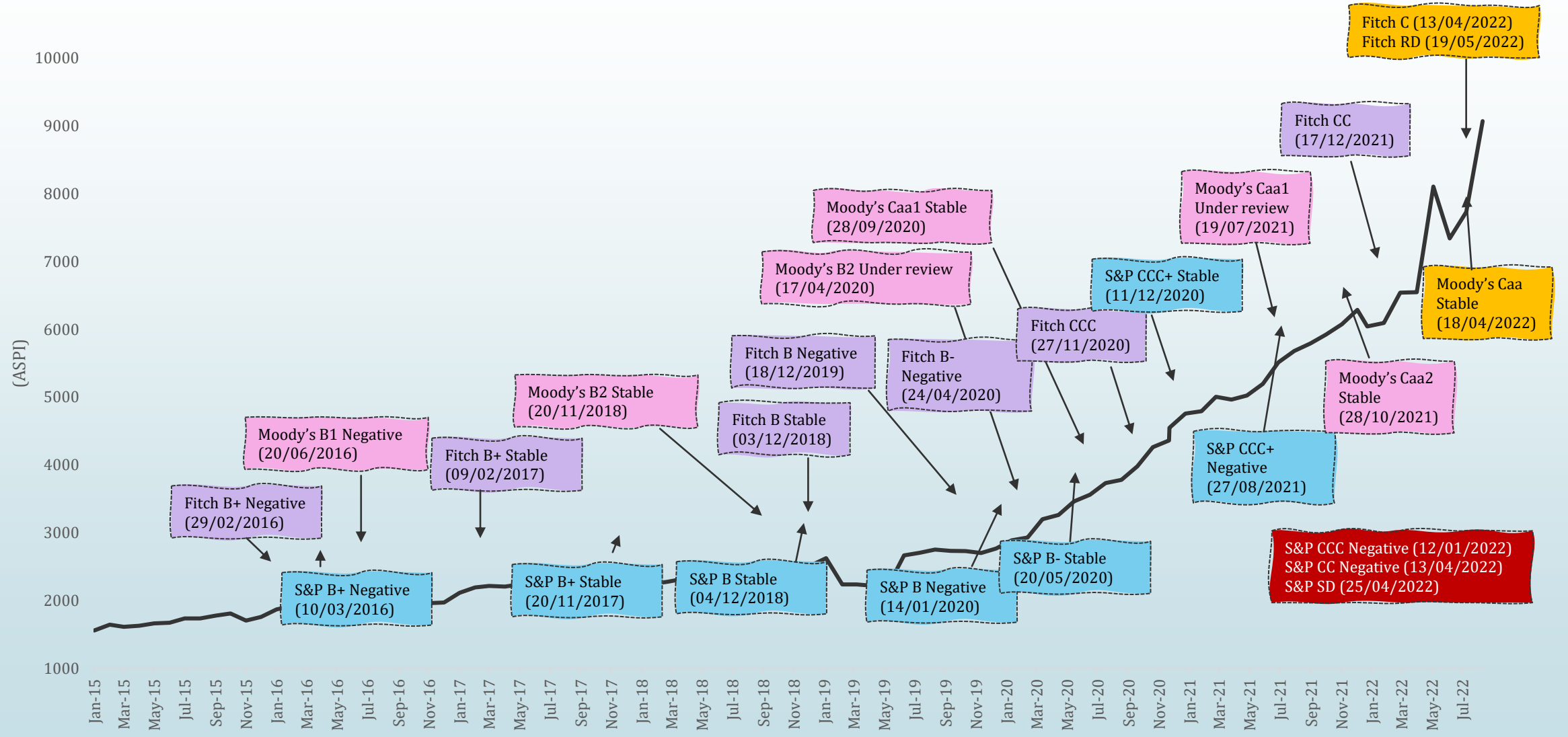
必要不可欠な燃料、医薬品、食料品を優先する一方で、必要不可欠でない物品の輸入を抑制する政策を維持する必要があります。

# 外貨準備高減少：2022年の総外貨準備高は、今のところ低水準にとどまっています。

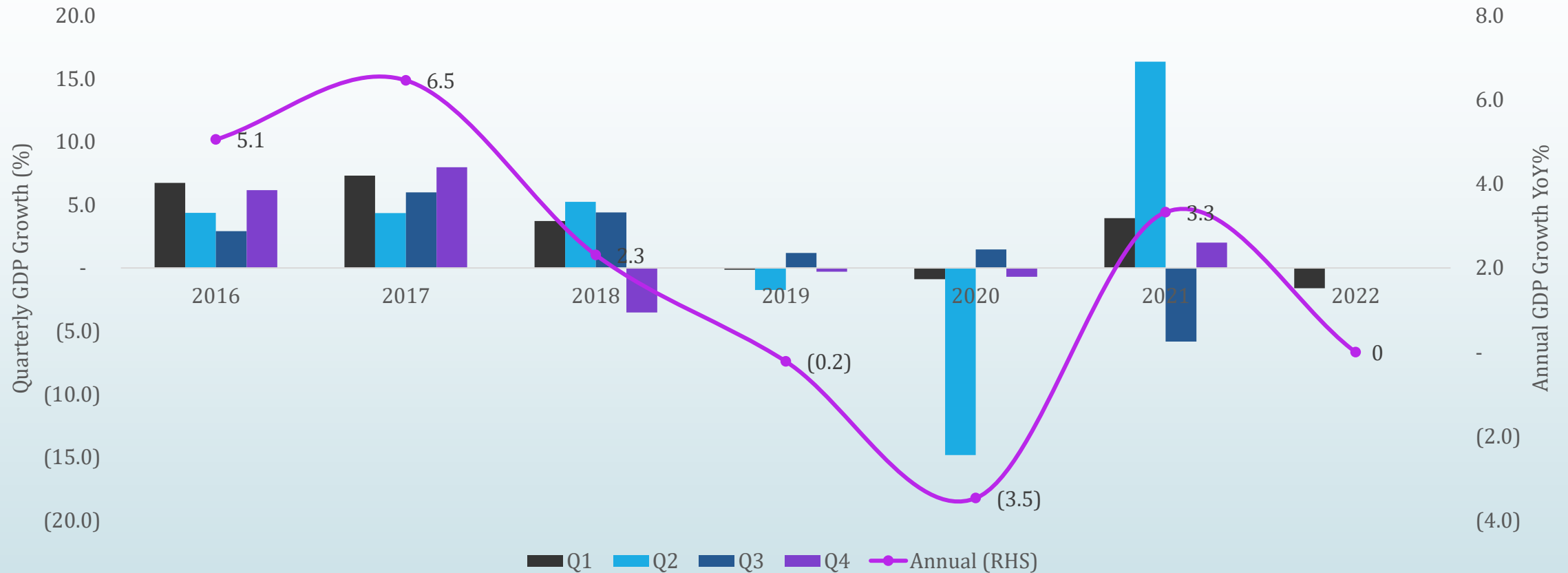
総外貨準備高は2022年に歴史的な低水準となり、必要不可欠な輸入に十分なものではない



# 格付けの引き下げ：22年4月の債務不履行に続き、格付け会社による更なる格下げを経験し、国際市場への参入が困難に



# 成長の引き締め：2021年のGDP成長率はパンデミック後に回復したが、経済危機により2022年の成長率は大きく縮小する可能性がある



スリランカのGDPは、2017年以降、多額の返済と様々な経済的・社会的課題のために成長が鈍化し、2020年のパンデミックの蔓延が成長をさらに鈍化させました。

ご清聴ありがとうございました